

導入反対を決議

小選挙区比例代表並立制

北摂 無所属の市民派議員

や、企業団体献金の早急な

廃止、小沢一郎氏などの国会喚問などゼネコン疑惑解明こそが、政治に関する有権者の信頼を回復するため「北摂ネットワーク」を結成し、国会請願署名、学習会、市民集会を取り組んでいくこと決めた。

「生徒出陣」50周年 体験証言に耳 「不戦のつとめ」 太平洋戦争中、約十万人の学生が戦地に駆り出さ

北摂の無所属の市民派議員十人が四日、茨木市の福祉文化会館で交流会を開き、小選挙区比例代表並立制の導入反対を決議した。議員らは今後、決議文を態度が不明な参院議員などに送付するなど、各方面に反対を働きかけたい、としている。

決議文では、小選挙区比例代表並立制は「一九八六年の国会決議に反するばかりか、比較第一党に絶対多数をもたらす、多数の死票を生み出すもので、国民の意思を国会に反映するという基準からふさわしくない制度」としている。そのうえで、「腐敗防止法の制定

小選挙区比例代表並立制

市民派議員が 導入反対決議

市民グループなどを支持基盤に、政党にとらわれない議員活動をしている北摂各市町の「市民派議員」が六日までに、小選挙区比例代表並立制の導入反対を決

議した。態度の不明な参院議員らに決議文を送る。茨木市の山下慶喜議員ら高槻、豊中、箕面の三市と能勢、島本両町の議員計十人が参加。小選挙区比例代表並立制は「比較第一党に絶対多数をもたらしく、国民

の意思を反映しない。政党助成、選挙での足切り条項など、小政党や無所属候補を排除し、民主主義の精神を踏みにじる」と批判している。

小選挙区制は 参院で廃案に

大阪府 井上 二郎

(弁護士 56歳)

政治家と同様、政党にも倫理と節操が要求される。そのいずれをも顧みず、ひたすら連立政権にしがみつこうとしている昨今の社会党、その無節操ぶりには目を覆いたくなる。

社会党は今年の総選挙まで、小選挙区比例代表並立制は民主政治を根底から覆すものだと反対していた。実に説得力があった。

ところが総選挙後、連立政権参加と引き換えに何ら支持者や国民に分かる説明もなしに態度を一変させ、小選挙区制導入を伴う政治

「改革」法案の成立を催促している。

この「改革」法案では、得票率三%以上などの「政党要件」が課されているために、新しい政治勢力の参入は阻止される。民主制に不可欠の少数意見、批判勢力は切り捨てられる。

公正な政治の実現を目指すしているはずの社会党が、なぜこんな法案に賛成するのか。そこに見えるのは、もっぱら保身の姿勢ではない。次の選挙で連合有力労組による選別を恐れていることであろう。国民政党を掲げる社会党ならば、連合の顔色をうかがうより国民に目を向けてほしい。

民主制とは無縁の、今の政治「改革」法案は廃案に

